

三鷹市立井口小学校 令和5年度【国語】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日記や生活の中で書く活動を取り入れたことは、効果的であった。</li> <li>○伝え合う活動をおおくり入れたことで、自分の考えを伝えられる児童が増えた。</li> <li>○授業に集中して取り組み、積極的に発言する児童が増えた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○助言を必要とする児童がいる。視覚的に分かりやすい指導をしていく。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平仮名の学習に丁寧に取り組む児童が多い。</li> <li>○授業や家庭学習で音読や読解の学習をしている文章については理解できる児童が多い。</li> <li>○初めて読む文章を読み取る力に個人差が見られる。</li> <li>○学習に関心をもち、すすんで取り組む児童が多い。</li> <li>○平仮名の正しい書き方が身に付いていない児童もいる。また、カタカナの書き方について継続的に指導が必要である。</li> <li>○助言、促音などの書き取りや発音が定着していない児童がいる。</li> <li>○自分の考えを書いたり、話したりすることにつまずく児童がいる。</li> <li>○マスの部屋を意識し字を書く力、文章を書く際の前原用紙の使い方（「」、句読点、段落や改行）について繰り返し指導が必要である。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ひらがなやカタカナを手本通りにバランスよく書いている児童を称賞し、全体に広める。1月の書初め展への見通しをもたせ、丁寧に書く意欲をもたせる。</li> <li>○助音や促音の書き取りについては、既習の手振子や交えた音を2週に1回程度行いながら日常的に指導し、理解を深められるようにする。</li> </ul> <p>【補充・発展的な学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平仮名・カタカナの書き取りがどの児童も身に付くように、日頃の授業や週1回の補習を通して繰り返し指導する。</li> <li>○2・3学期は、ノート指導の機会を増やし、マスに文章を書くことを習慣化する。ICT機器を活用し、マスの使い方が視覚的に分かるようにする。</li> <li>○週に1回の図書や朝読書の活用し、本の読み聞かせや読書を行い、読解力や表現力を養う。</li> </ul> <p>【三鷹の学びのスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物の気持ちについて想像したことや、文章を読んだ感想について友達と交流する機会を週に1回程度設け、自分の考えをもつことが難しい児童にも書き方が分かるようにする。【学習習慣2】</li> </ul>
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し丁寧に指導をしたことで、丁寧な書字や漢字の定着が見られた。</li> <li>○理由と共に自分の考えを発表、交流することで表現力や聞く力が育った。</li> <li>○どんな意見も肯定的にフォローすることで、自分なりの考えを発表する姿が増えた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書くことに苦手意識をもつ児童が多く、個別に手立が必要。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○意図的に取り組む児童が多い。</li> <li>○文字や文章を書く力の差が大きく、基礎学力の差が激しい。</li> <li>○話し合いながら意見を共有し、深めることができる。</li> <li>○場面ごとに、登場人物の様子や気持ちの変化を想像できる児童が多い。</li> <li>○登場人物の気持ちを意識した音読で、セリフと地の文の読み方が身に付いている。</li> <li>○学習が必要な場所を見付けることができない児童がいる。</li> <li>○マスの部屋を意識し字を書く力、文章を書く際の前原用紙の使い方（「」、句読点、段落や改行）が繰り返し指導が必要である。</li> <li>○登場人物の気持ちなどを上手に書き表せない児童がいる。</li> <li>○思考を必要とする課題に対しては受け身になりがちな児童がいる。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文字や言葉は、課題やノート、ミニテストなどの普段の活動で使用する頻度をあげる。また、ひらがなカタカナを含めて丁寧に書くように指導していく。</li> </ul> <p>【補充・発展的な学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○お互いに書いたものを見合う活動を設定する。そして、相手にとって読みやすい分かりやすい書き方を意識させ、より良い書き方について考えられるようにする。</li> <li>○自ら課題を設定し、それらに向けて自分たちで解決の仕方を考えていく雰囲気を作る。お互いに意見を共有する活動を増やし、様々な意見を知ることや考えが深まることを知り、いろいろな人の意見を聞くこととする態度を育てる。</li> <li>○気持ちや様子の変化の読み取りを行う際に、自分の考えの根拠を教科書からもたせるようにすることで、思考力と判断力を身に付ける。</li> </ul> <p>【三鷹の学びのスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○さまざまな児童と交流させ、自分の考えを理由と共に発表する習慣をもたせ、表現力を育てる。【学習習慣2】</li> </ul>
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相手意識をもたせ、実践の機会を意図的に設けることで、内容が充実し丁寧な文章を書くことができるようになった。</li> <li>○言葉や文にサイドラインを引き、文章から読み取ったことを、ペアや全体で交流する機会を多くすることで、読みを深めることができた。</li> <li>○家庭と連携した音読指導が充実し、表現力が伸びている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書く学習が苦手な児童への手立が必要。（各クラスに数名ずついる）</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習への取り組み方に対する意図に差が見られる。</li> <li>○新出漢字に興味をもち、宿題や小テストなどを通して、漢字の書き方や使い方の理解を深めた。</li> <li>○物語の文章の教材では、登場人物の行動や物語の流れから登場人物の心情を考えることができた。</li> <li>○語彙が不十分な児童がいるため、継続して指導が必要である。</li> <li>○発表の仕方に自信がもてず、小さな声で発表をする児童が多い。</li> <li>○話の中心に気を付けて聞くことが苦手な児童がいる。</li> <li>○文章を順序立てて書いたり、まとめることができず、段落や句読点を意識し、文章を正しく書く力に課題がある。</li> <li>○説明文に関して、筆者の伝えたいことに注目して内容を読み取ることが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○週に一度、週末日記を書かせ、経験したことや感じたことなどを順序立てて書く経験を積ませる。定期的な、前原用紙を活用した作文指導を行い、前原用紙の使い方を定着させる。</li> <li>○類型を用いた発表の仕方や、友達の見聞き方の指導を徹底する。</li> <li>○音読指導を継続して行い、話の中心をとらえて読むことができるようにする。</li> <li>○説明文は、「はじめ」「中」「終わり」の構成をもとに「問い」に対する「答え」を探しながら読む方法を習慣化させる。</li> </ul> <p>【補充・発展的な学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○お互いに書いたものを見合う活動を増やし、相手にとって読みやすい分かりやすい書き方を意識できるように指導する。</li> <li>○説明文は予測しながら読むことで文章内容を理解する力を育てる。</li> <li>○一人ひとり有意義に学習に参加できるよう、1時間のうちの回は友達との交流活動を取り入れるなど、学び合う機会を設ける。</li> </ul> <p>【三鷹の学びのスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○語彙を増やし、豊かな表現をすることができるよう、読書を推奨する。また、国語辞典を活用し、言葉の意味を理解させる。【学習習慣4】</li> </ul>
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章の構成や内容を確認しながら読むことで、要点を捉えられるようになってきた。</li> <li>○自分の考えや文章から読み取ったことを、理由とともに説明できるようになった。</li> <li>○教師や友達の話の集中して最後まで聞ける児童が増えた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○書く学習が苦手な児童への手立が必要。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言語の理解はできている児童が多い。</li> <li>○文章をしっかり読み、内容や構成を捉えられるようになってきた。</li> <li>○進出漢字への関心は高く、取組も意欲的である。</li> <li>○単元ごとに学習計画やめあてを提示することで見通しをもって取り組むことができた。単元によっては学習への意図に差が見られる。</li> <li>○文字や文章を書く力の差が大きく、基礎学力の差が激しい。</li> <li>○自分の考えや読み取ったことを文章で表現することや、読み取ったことを理由とともに説明することが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し漢字の練習を行う。テストでは、間違えた漢字を繰り返し練習したり再テストを行ったりすることで定着を図る。既習漢字は、文章を書く際に積極的に使うよう指導する。</li> </ul> <p>【補充・発展的な学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアやグループでの活動を多く取り入れ、考えを発表する機会を増やし、自分の考えに自信をもてるようにする。</li> <li>○説明文は、「はじめ」「中」「終わり」の構成をもとに「問い」に対する「答え」を探しながら読む方法をスモールステップで指導していく。</li> <li>○物語などの気持ちや様子の変化の読み取りを行う際は、自分の考えの根拠にして、表現できるように指導する。</li> </ul> <p>【三鷹の学びのスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを書いたり話したりする機会を増やす。【学習習慣3】</li> </ul>
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間を通して、文章を書く学習を積み重ねてきた。適切なところで文章を区切ったり、正しい日本語を使用したりして、分かりやすい文章を書くことができた児童が増えた。</li> <li>○一人ひとりが考えをしっかりとつもつように指導したり、時間をつくることで、児童同士が積極的に考えを交流することができるようになった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作文用紙の使い方について今後も指導していく必要がある。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の定着はよくできる児童と苦手としている児童の差が大きい。</li> <li>○物語文の登場人物の心情を読み取ることができる。</li> <li>○自分の意見を文章にして書き表すことに意欲的な児童が多い。</li> <li>○説明文を読み取ることに対する抵抗がある児童が多く、文章を読んで、文の中心や要点を読み取る力に課題がある。</li> <li>○主語と述語、文章を順序立てて書いたり、まとめることができず、段落や句読点、接続詞を意識し、適切な文章を正しく書く力に課題がある。</li> <li>○理解したことを自分の言葉で説明することに課題がある。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字は反復練習に加え、熟語や成り立ちなどを学習させることで記憶への定着を促す。</li> <li>○学習に取り組み姿勢を高めながら、よりよい文章にしたうえで、自分の言葉で説明したりしようとする意欲をもてるような声掛けをする。</li> <li>○初めて読んだ文章を、短い言葉でまとめて説明できる活動を取り入れる。</li> </ul> <p>【補充・発展的な学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○お互いに書いたものを見合う活動を増やし、相手にとって読みやすい分かりやすい書き方を意識させ、より良い書き方について主体的に考えようとする姿勢を育む。</li> <li>○説明文は、「はじめ」「中」「終わり」の構成をもとに「問い」に対する「答え」を探しながら読む方法を習慣となるよう普段から声掛けなどの働きをしていく。</li> <li>○気持ちや様子の変化の読み取りを行う際に、自分の考えの根拠を教科書からもたせるようにすることで、思考力と判断力を身に付ける。</li> </ul> <p>【三鷹の学びのスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアワークやグループワークを用いて、友達のことを参考にしたり、自分の考えに自信をもてるようにする。【学習習慣2】</li> </ul>
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えや感想をノートやワークシートに書き表すことはできる。</li> <li>○文章の書き起こしたものを使ったり、スクリーンの画面を使ったりしたことで、文章のどの部分を読み取ればよいのか可視化することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友達のことを聞く姿勢や、相手に伝わるような話し方ができていない。</li> <li>○漢字テストに定期的に取り組んでいるが、正しい漢字の読み書きの定着にはまだ課題が残る。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの児童が、漢字を丁寧に正確に書くことができる。</li> <li>○主語と述語、文章を順序立てて書いたり、まとめることができず、段落や句読点、接続詞を意識し、適切な文章を書く力に課題がある。</li> <li>○物語文では登場人物の気持ちの読み取りや意見交流を積極的に行うことができる。</li> <li>○音読に苦手意識がある児童が多い。</li> <li>○漢字の習得について、送り仮名の間違いが多い。</li> <li>○授業での問答や、テスト等の問題を的確に答えることができない児童が多い。</li> <li>○説明文を読み取ることに対する抵抗がある児童が多く、文章を読んで、文の中心や要点を読み取る力に課題がある。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ジャーナルノートを使って、文章の書き方や接続詞の正しい使い方を学ぶ機会を増やしていく。</li> <li>○文章問題に正確に答えられるように、キーワードになる言葉に印をつける等して、何を聞かれているのかを考えながら読み取らせる。</li> </ul> <p>【補充・発展的な学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業文集の作成に向け、習った漢字を用いて、誰にでも分かりやすい文章を書く機会を多くもたせる。</li> <li>○物語文・説明文を問わず、自分の意見をどんどん言うことに重きを置かせる。例え全体で発表できなくても、グループ内で付箋や対話などを取り入れて意見交換させ、自分の考えを表現することの充実感をもたせる。</li> </ul> <p>【三鷹の学びのスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○説明文は、「はじめ」「中」「終わり」の構成をもとに「問い」に対する「答え」を探しながら読む方法を習慣化させ、他教科にも活用できるようにする。【学習習慣6】</li> </ul>

三鷹市立井口小学校 令和5年度【社会】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図やグラフ、表などの資料を活用して調べる活動を通して、情報を集める力が伸びた。</li> <li>○新聞やポスターで、アウトプットする機会を設け、自分の考えを表現できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料から情報を読み取る際に、情報を精査して読み取る力が不十分であり、引き続き指導が必要である。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○東京都や三鷹市の東西南北の特徴を交通や地形などの視点で捉えることができていない。</li> <li>○地図やグラフ、表などの資料を活用して調べる活動にも慣れてきたが、個人差がある。</li> <li>○学習したことを新聞やグループで伝え合うなどしてまとめる活動をした。到達度に差はあるが、考えたことを確実に表現していた。</li> <li>○タブレット端末や副読本等を使って調べることができるが、必要な情報だけを見付け出す力は、不十分である。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料から知りたいことを調べる学習において個別の活動の後に全体で交流を行い、調べる視点をつかませる。</li> <li>○自分の考えをすすんで発表しようとする姿勢を積極的に評価し、自信を付けさせていく。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調べ学習の後にまとめたことを振り返り、情報を精査する視点をもたせる。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で調べ、新聞やスライドなどにまとめたことを基に学び合う時間を確保する活動を繰り返し行っていく必要がある。【学習習慣2】</li> <li>○タブレット端末や副読本など、膨大な情報から必要な情報を見出してけるように、自分が読んで分かることを書かせたり、本当に適切な内容が考えさせたりする。【学習習慣3】</li> </ul>
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図帳の活用を積極的に行ったことで、三鷹市と学習した地域の位置関係を把握できていた。</li> <li>○社会科見学で学習したことを新聞にまとめるときに、記載するポイントを押さえたことで、多くの児童が考えをまとめることができていた。</li> <li>○調べるときに情報を限定的にすることで、適切な情報収集の素地が養われていた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図帳の活用は続けていくと良い。</li> <li>○互いに見合った後の振り返りの時間が設けられると良い。</li> <li>○4年生の段階では、教員が情報源を限定する必要がある。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図やグラフなどの資料を正しく読み取ることができない児童がいる。また、それらの情報から推測したり、理由を考える力が弱い。</li> <li>○学習したことを新聞やグループで伝え合う活動を行った。学んで考えたことを表現することができていた。</li> <li>○タブレット端末や教科書を使って調べることができるが、難しい文章や資料をそのまま書き写すだけになってしまっている。意味や様子をすすんで考えようとする姿勢が十分ではない。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図やグラフからの読み取りは、学級全体で丁寧に読み取る指導を行い、確実に身に付けられるようにする。</li> <li>○調べ学習でタブレット端末に頼る児童が多いことから、教科書や副読本の使用を促し、多様な情報源から選び出す力を育てる。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の中で、グラフや表を読み取る時間を設け、それらの情報から考えられることを話し合う。</li> <li>○新聞やタブレット端末のプレゼンテーションアプリなどで児童自身の力でまとめる時間を設定し、表現力を身に付けさせる。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のまとめを作品にするときには、調べた事実に加え、感じたことや気付いたことを自分の言葉で書くように促す。【学習習慣3】</li> </ul>
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット端末の導入もあり、調べることに意欲的に取り組む児童が多い、また資料をもとに調べる力が身に付いてきている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフや表からデータを読み取ることができていたが、さらにそのデータから考えさせる機会が少なかった。グラフや表から情報を読み取った後に、その背景にある事象を考えさせることで、より深く考えるための見方を身に付けさせたい。</li> <li>○学んだことをまとめて形にする機会が少なかった。新聞やポスターを作成する活動に取り組みせ、表現させるようにする。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書や資料集等のページを指定し、資料を読み取る活動やNHKの動画を見ることで、理解を深めることができていた。</li> <li>○テストの問題の読み取りが不十分で、設問に適切に答えられない児童が多い。</li> <li>○学習した内容を活用して、資料を分析することが苦手な児童が多い。</li> <li>○選択学習や発展学習としての新聞づくりを工夫してまとめることができる児童が多い。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図帳や資料集を活用して、広い範囲の中での位置確認をしたり、そこから考えられるようにポイントを見付ける力を育てる。テストの間違ひをもとに正しく理解できるように、見直しシート等の活用を図る。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料等から読み取ったことを深く考える時間を確保すると共に、個人で考え表現する時間は設け、友達と共有する時間をさらに確保し、自分の考えに自信をもてるようにする。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会の事象にも目が向くように話題を投げかけると共に、友達のノートや新聞などを参考にして、更に学習を深めようとする態度を育てる。【学習習慣4】</li> </ul>
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人で考える時間と児童同士で意見交流する機会を毎回設けたことで、多様な考えに触れ、自分の考えをさらに深めることができた。</li> <li>○資料提示を工夫することで、教材の出来事や登場人物を自分事として置き換え、自分に繋げることができていた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○知識に偏りがちで、思考面が弱い。</li> <li>○友達の話聞くより、自分の意見を主張することに重きを置きがちな児童が目立つ。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料や動画を見たり、当時の人の立場に立って考えて意見を述べ合ったりして、互いの考えを深めることができた。</li> <li>○学習した上での自分の考えを振り返りてしっかりと書くことができるようになってきたが、個人差が大きい。</li> <li>○資料から情報を見付けたり、抜き出したりする力が身に付いていないなど、課題が見られる児童が一定数いる。</li> <li>○テスト等で、指定された言葉を使って説明することが苦手である。国語の時間も含めて、意味が正しく通じるか、書いた文章を読み返すことが必要である。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史学習において人名や重要語句の難解さから苦手意識をもつ児童には、歴史を流れとして理解できるように資料や動画、レプリカ等を活用したり、具体的な体験をしたりすることで、学習意欲を高める。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えをまとめた後、それぞれの考えを交流させることでとらえ方の違いがあることに気付かせる。</li> <li>○資料等を読み取る時間を十分に確保し、資料をもとに自分の言葉で考えをまとめさせる。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業で学んだことを基に個別の学習に発展させ、学習の自立を促す。【学習習慣6】</li> </ul>

三鷹市立井口小学校 令和5年度【算数】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別のコースに合わせて、課題を変えたり、補習を行ったことで、学習の定着を図ることができた。</li> <li>○文章問題では、絵や図に表して整理し、考えようとする習慣が身に付いてきた。</li> <li>○家庭と連携したことで、間違いをそのままにしない意識が付けてきている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章問題では、何を求めているのか理解する力が弱く、単位を間違える児童が多いため、問題をよく読むこと、大事なことに線を引くことなど、今後も意識させる必要がある。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1桁の足し算・引き算でも、手を使わないと答えを出せなかったり、具体物が必要な児童があるので、頭の中ですぐに答えを出せるようにしていくことが課題である。</li> <li>○計算はできるが、文章題になると題意が分からず、解答できない児童が多い。何を聞かれているのか、内容を整理して問題に取り組むことが課題である。</li> <li>○全体的に意欲的に取り組む児童が多いが、集力がなく違うことをしていたり、話を聞いていなかったりする児童も数いるので、意欲的に学習に取り組むことができる授業形態や日々の学習態度の指導が引き続き課題である。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が興味をもって学習が進められるよう、授業展開の工夫、教材研究に努める。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題意が読み取れない際は、具体物を用いたり、図に示して考える活動を繰り返し、自分で考えられるよう指導していく。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○音読や朝学習の時間を使って、継続的に計算問題に取り組んでいくことが必要である。また、定着が不十分な点は家庭学習で補うことができるよう学習の環境を整えていく。【学習習慣5】</li> <li>○算数に限らず、どの科目においても教師の話を集中して聞くことができるよう指導を続けていく。【学習習慣2】</li> </ul>
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○補習や習熟度学習で個別に対応することで、算数への苦手意識が薄れ、意欲的な姿や粘り強さが多くみられるようになった。</li> <li>○自分で考える時間、交流する時間を設けることで、自分の考えを表現し、学びを深めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題や補習で繰り返し学習したが、かけ算の九九の定着や長さ、量の単位換算の理解、単位選択に課題が見られた。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○プリントに繰り返し取り返すことで、繰り上がりのある筆算の定着が見られたが、繰り下がりのある筆算を苦手とする児童が何人かいる。また、筆算の長さや時間の問題は、時間が経つと忘れてしまうので常時復習が必要である。2学期は、全員のかけ算九九の習得を図る。</li> <li>○図や言葉を使って、自分の考えをノートに書き、説明できる児童が何人か見られた。一方で、ノートを書くことができない児童がいるので、板書を工夫して、ノートを書いて考えを深める児童を増やす。</li> <li>○全体的に、意欲的に取り組む児童が多いが、苦手意識をもっている児童は、ノートをとったり問題に取り組んだり学習に向かう意欲が弱い。自分の課題が終わると、分らず困っている友達に声を掛け、教えている姿も見られた。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○補習や、サマースクール等を行い、個別に支援する。eライブラリを効果的に活用する。九九の学習では、九九カードを効果的に使いながら、リズムを付けた暗唱を繰り返し行うことで、乗法の基礎の定着を図る。</li> <li>○習熟度別に応じたプリントをあらかじめ準備しておく。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習の内容を振り返る時間を設け、定着した知識理解をメタ認知させる。</li> <li>○間違えることで解決に向けて考えようとするので、間違えをみんなが解決していくという雰囲気を作る。問題を解くことができる児童は、どのような間違いがあるのか、どのように考えていけば間違いを減らせるのかを考えて広めていくように指導する。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○毎時間の授業で、児童が自分の考えをまとめ、全体で共有する時間を確保する。自分の考えをうまく表現できない児童に対しては、友達と意見を共有し、自分の考えとして深め、ノートに書く指導を行う。【学習習慣2】</li> </ul>
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えをノートに書かせる時間を多くとったことで、全体に共有する前に自分の意見をもつことができた。他にも、児童のノートを全体で共有したり、可能な範囲でグループ学習を進めたりすることで、多くの児童が考えをノートに残すことや、意見を深めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○かけ算やわり算の計算を継続的に取り入れていたが、まだ習熟の低い児童がいる。引き続き、取組が必要である。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○わり算の学習では、かけ算や繰り下がりのある引き算が定着していないことで苦手意識をもたせ、課題に取り組むことが難しい児童がいる。</li> <li>○計算は身に付いてきているが、文章問題でつまづく児童が多い。</li> <li>○図や言葉を使ってノートに自分の考えを書くことで、思考が整理され、説明することにつながっている。一方で、自分の考えを書いたり説明したりと表現することが難しい児童もいる。</li> <li>○計算方法を考える際、1つの解決方法を見つけたら他の方法がないか考え、多くの考えをノートに書いたり、発表したりしている。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○かけ算や繰り上がり、繰り下がりのある計算など、既習事項の計算において繰り返し出てくるものは、朝学習や授業の初めの時間を活用して基礎を回復指導する。</li> <li>○図や表、グラフを積極的に用いて考える習慣を付けられるように声をかけたり、できている児童のノートを取り挙げたりする。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章題で、何を聞かれているのか読み取る力を身に付けるため、国語科とも連携し取り組んでいる。</li> <li>○自分の考えが思い浮かばない児童もいるため、ペアやグループでの学習も積極的に取り入れていく。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○考えをたくさん出し、学んだことを活かす場を重視する。【学習習慣4】</li> </ul>
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○eライブラリと東京ベーシックドリルを組み合わせて、児童一人ひとりの苦手に合わせた課題を出した。自分の苦手を知ることができた。</li> <li>○ペアやグループでの確認や話し合いを通して、互いに学び合い、理解する児童が見られた。</li> <li>○他者と確認することで、考えに自信をもち発表する姿が見られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○苦手の克服には至っていない。eライブラリだけでは不十分だと感じた。</li> <li>○自分の考えを言語化できても、視覚化できない児童が見られた。ノートの書き方の例や友達の書き方を確認させ支援が必要である。</li> <li>○ペアやグループで確認し合う活動は効果的であったため、継続していくと良い。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○わり算の筆算の仕方は理解したが、除数や被除数のけが大きくなり、難しさを感じている。</li> <li>○垂直、平行な線や四角形を分度器や三角定規、コンパスなどを使い作図することが難しいと感じる児童が多い。</li> <li>○億や兆という大きな数を知識として理解はできたが、具体的にイメージしたり日常生活の中に取り入れることは難しい。</li> <li>○図形を構成する要素に着目し四角形の性質を捉えることができたが、学習内容の定着を図る必要がある。</li> <li>○意欲をもって授業に取り組む児童は多いが、中には課題に取り組んだりめあてや振り返りをノートにまとめることが困難な児童もみられる。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各自が苦手とする単元は補習などで個別に支援するほか、eライブラリを活用する。また、児童の学習の定着度を確認しながら、必要に応じ振り返りの時間を設け、知識・技能の定着を図る。</li> <li>【補足的・発展的な指導】</li> <li>○各自が学習活動だけでなく、グループやクラスで話し合ったり意見を交換したりしながら、課題解決に向けて取り組んでいくような発問や導入の工夫をする。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○単元や本時のめあてについて児童が自分で考えたり、学習についての振り返りを行う時間を十分に確保する。ノートに書くことを苦手とする児童にも、それぞれに合ったノートの書き方や課題への取り組み方を指導していく。【学習習慣2】</li> </ul>
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章問題では数直線や4マス関係表を繰り返し書くようになってきたことで、立式だけでなく、図や言葉で根拠をもつて説明できるようになってきた。</li> <li>○ペアで考え方を伝え合ったり、グループ内で伝え合ったりする機会を多く設けたことで、自分の考えを友達に伝えられるようになってきた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習の単元と結び付けて考えることができなかったり、忘れてしまっていたりする児童が多い。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「単位数当たりの大きさ」や「小数のわり算」の単元でつまづきが多く見られる。</li> <li>○自分の考えをノートに書いたり言葉で説明したりすることが苦手な児童が多い。</li> <li>○答えを求めることはできるが、根拠をもって説明することができないことがある。</li> <li>○意欲的に授業に取り組む児童が多いが、算数に苦手意識をもっている児童も多くなる。また、自分の考えに自信がもてず発表しない児童がいる。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○補習の時間に、理解が不十分な児童への個別支援を行う。eライブラリを活用し、学習内容の定着を図る。</li> <li>○図や数直線、既習事項を活用し、根拠をもって立式したり答えを導き出したりにできるようにする。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアやグループで友達に自分の考えを伝える機会を多く設けることで、自分の考えに自信をもって発表できるようにする。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○課題解決のために考える時間を確保し、自分の考えをノートに書くようにする。【学習習慣3】</li> </ul>
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別の学習により、基礎的な力を身に付けさせることができた。また、学習の流れを確立することで、見直しをもって学習に臨むことができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ノート自体を交換し合うことで考え方の共有を図ったが、自分の考えを説明することをせずにノートを渡すだけの児童がいる。説明能力や言語化に課題が残る。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○取り組む問題数を増やしたことで習熟を図ることができた。</li> <li>○単元の内容によっては、自分の考えを書く時間をしっかりと設け、友達同士や全体で交流する時間をもつと設ける必要があった。</li> <li>○部分的に自由進度を取り入れたら、振り返りをしたりすることで自己調整力を伸ばすことができた。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の問題、eライブラリ、アルパルク東京算数ドリルに繰り返し取り組み、計算等の基礎を定着させる。補習の時間を活用し、個別指導が必要な児童をサポートする。</li> <li>○文章問題を解く際に、数直線や4マス関係表を書かせ、なぜその式になったのか根拠をもって解るようにする。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ホワイトボードなどを活用してグループ活動を行い、友達に考えが伝わるように説明させる機会をもたせる。</li> <li>○部分的に自由進度学習を取り入れて、けげぶれの思考法を活用して学習に取り組めるようにする。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○タブレット端末を活用し、考えの共有を図ったり、児童が互いに自分の考えを伝え合う時間を設ける。【学習習慣2】</li> </ul>

三鷹市立井口小学校 令和5年度【理科】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験器具の安全な使い方は身に付いている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項の知識が混同している場合がある。年度末に系統立てて整理する必要がある。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○虫メガネで本物を観察することを通して、驚きや発見を深め、意欲的に学習している。</li> <li>○児童がグループで生き物や植物を飼育することはできなかったが、学級全体で生き物を飼育し、植物を育てて対応することでその生態を学ぶことができた。</li> <li>○虫取りや草取りなどの経験が少ないために動植物に関する予備知識が少ない。</li> <li>○コロナ禍でグループでの観察、話し合いが前年度まで満足にできなかったため、タブレット端末などの調べ学習に偏りがちで『考える』という時間が少ない。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然観察等の体験やタブレット端末の映像で確かめることにより基礎的な知識を増やす。</li> <li>○予想をしっかりと立てた上で、観察や実験結果を検討することを徹底し、なぜそうなったのかを深く考えるよう導いていく。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の導入などで、日常生活と結び付けて、児童に問題意識をもたせるところから始める。単元の終わりにも日常の場面と繋げ、学んだことを学習や生活に生かすことができるようにする。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の考えをじっくりと考えたり、調べたりできる学習課題を設定する。考えたり、調べたりする時間を保障する。</li> </ul> <p>【学習習慣3】</p>
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話を聞くルールを徹底することで、実験などの大事な話はしっかりと聞けるようになってきた。</li> <li>○実験の前に必ず予想とその理由を考えることで、実験を深めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験を楽しむだけでなく、分かったことをまとめ、知識として定着できるようにする必要がある。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験の予想など消極的な児童もいる。</li> <li>○自由なテーマでの調べ学習への取組が深まらない児童もいる。</li> <li>○新しく学習したことを繰り返し指導しても、定着が難しい児童もいる。聞くことを徹底したい。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい用語は声に出して発音する機会を作る。授業中きちんと聞いているか、聞くルールを確認徹底する。</li> <li>○1学期は発表の機会を作れなかったため、今後は機会をもち、働きかけを行う。</li> <li>○観察や考察をする際、既習の内容や生活経験等を根拠として活用できるよう声掛けをしていく。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアやグループなどで考えをまとめたり、発表したりする機会を増やし、積極的に取り組めるようにする。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の考えをじっくりと考えたり、調べたりできる学習課題を設定する。考えたり、調べたりする時間を保証する。</li> </ul> <p>【学習習慣3】</p>
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予想を生活経験と結び付けて考えられる児童が増えた。</li> <li>○実験を条件制御することができるようになり、実験結果から考察を自分の力でまとめることができるようになった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験の正確さや課題の自力解決に課題があるので、自信をもって丁寧に取り組むことが課題である。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期は、生命領域を中心に条件を制御しながら調べる活動を行った。年度の初めに、条件制御の仕方を全体指導したことで、解決の方法を発想する力が大切であるということ児童が理解している。</li> <li>○条件制御の考え方が重要な力であることは児童が理解しているが、条件制御をして検証計画の立案ができず、友達に頼る児童がいる。</li> <li>○問題解決的な学習を進めていく上で、既習の内容が定着していなかったり、生活経験が少なかったりし、根拠がない予想になっている児童が多くみられた。今後は、単元の前に、既習の内容を確認したり、共通体験を多くしたりすることで、根拠をもった予想を立てる力を養っていく。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人の考えをノートに記述させる。また、それらを基に、ペアや小集団で対話する場面を設定し、考えの深まりを導き出していく。</li> <li>○問題解決の力を養うために、予想や仮説を基に、解決の方法を発想していく場面を適宜設定する。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元導入前に、既習の内容を確認し、安心して問題解決に取り組むことができるようにする。</li> <li>○実験のどのような場所の条件をそろえる必要があるかを学級全体で行った後、実験方法を結果の見直しをもたせながら個人やグループで構想し、行う機会をつくる。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の考えに不安を抱える児童に対しては、小集団での対話の場を設定し、考えを変えてもよいこととする。【学習習慣2】</li> </ul>
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の力で課題をとらえ、実験方法を考えることができるようになった。</li> <li>○生活経験と結び付けて考えることができる児童が増えた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一つ一つの課題や実験に丁寧に取り組んだり、見直しをもって実験を行うことが課題である。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度当初に、より妥当な考えについて全体指導したことで、自分の結果だけが正しいのではなく、客観性や再現性、実証性が大切であるということ児童が理解している。</li> <li>○自然事象に対する関心が高く、授業に対して意欲的に取り組んでいる。</li> <li>○基本的な知識の定着が図られていない児童がいた。eライブラリや復習プリントなどを活用しながら、知識の定着を図る。</li> <li>○考察する場面では、「予想や仮説の振り返り」「事実の確認」「事実から得られる解釈」の3点を考えるよう指導してきたが、記述できない児童がいる。理科室やノートに問題解決のプロセスを掲示し、見直しをもって学習に取り組めるようにする。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人の考えを表現してから、ペアや小集団で対話する場面を設ける。そうすることで、より考えの深まりを導き出していく。</li> <li>○問題解決の力を養うために、得られた観察や実験の結果を基に、科学的事象を多面的に考えながら、事実と解釈に分けて表現できるよう、書き方の指導をする。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○誤った結果や誤差に関して、なぜ異なった結果になったかを検討する場を設け、観察・実験の再点検を行い、多面的に考える習慣を身に付ける。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の考えに不安を抱える児童に対しては、小集団での対話の場を設定し、考えを変えてもよいこととする。【学習習慣2】</li> </ul>

三鷹市立井口小学校 令和5年度【音楽】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>【成果】 ○常時活動(既習曲歌唱・音楽遊び)+主活動の学習パターンで多くの活動を途切れなく進めることで、できるだけ集中力が途切れないように活動できた。 【課題】 ○たくさん活動をとり入れ過ぎて本時の主活動が短くなってしまったことがあった。 ○鍵盤学習ではワークを順番に進めることはできたが、学習カードを使用することができなかった。</p>	<p>【現状と課題】 ○歌唱の際は、曲を知っている児童・知らない児童、鍵盤の際はピアノができる児童・できない児童の個人差が大きい。 ○学習の流れを作り、専科教員が授業を担当する際も同じ流れで学習に取り組むことができるようにする。 ○音程を意識した歌唱や曲に合わせて自由に表現することに恥ずかしさを感じてしまう児童もいるので、積極的にのびのびと音楽を楽しめるようにしていくことが課題である。</p>	<p>【習得と活用】 ○今後、鍵盤の学習に大きな差が生じることが考えられるので、補習学習やサポート隊を活用して、技能の定着を図るよう努める。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎自信がもてず、なかなか自分を表現できない児童もいるため、グループや少人数で共有・練習をしてから全体で広げていけるよう学習形態を工夫していく。また、上学年の歌声を聞く機会を設け、目標をもって学習に取り組むことができるようにする。【学習習慣2】</p>
第2学年	<p>【成果】 ○制限がある中でも、歌唱や合奏に意欲的に取り組み、感じたことを感想に書くことができる児童が増えた。 ○個別指導の時間や教え合いの時間を設けることで、学習の進度に大きな差を作ることなく進められた。 【課題】 ○歌声や音程を意識した歌い方や、学級全体でリズムを合わせて合奏する機会が少なく、技能の定着に課題がある。 ○学習内容にのめり込めを設け、振り返りを行えるようにできるとよい。</p>	<p>【現状と課題】 ○音符や歌声を意識して歌うことができる児童が多い。 ○鍵盤楽器や打楽器の技能習得に個人差があり、学習進度に差がある。 ○演奏を聴き、創造力を養う必要がある。 ○意欲的に学習にとりくむ児童が多いが、授業のルールが守れずスムーズに学習できない児童への指導が十分でなかった。</p>	<p>【習得と活用】 ○自分の歌声に注意しながら歌う習慣を身に付けられるように声掛けをしたり、動画を活用して魅力ある歌声や歌い方にふれる機会を増やす。 ○伴奏などの周りの音を聴いて、合わせて演奏したり様子を想像したりする活動を充実させる。 【補充的・発展的な指導】 ○各題材、毎時間の学習に対して見通しをもてるように工夫する。また、学習内容によっては個別のめあてを設定できるように工夫する。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎個別指導の時間や子ども同士での教え合いの時間を設け、学習の進度に差が出ないようにする。また個別に課題を設け、技能の向上を目指す。【学習習慣2】</p>
第3学年	<p>【成果】 ○器楽合奏を2・3学期に1回ずつ取り入れ、担任や保護者の前で発表の場を設けることで、より意欲的に活動に取り組む姿勢が生まれた。また、発表までのスケジュールを明確にする中で見通しをもって活動することができた。 ○鑑賞の学習で、音楽の要素や言葉のプリントの中に位置付け、感想を書く時の拠り所とすることができた。 【課題】 ○音符・音階について、常時に活動することができなかった。 ○音楽の要素や言葉をいつでも見られるようにすることができなかった。</p>	<p>【現状と課題】 ○音符や休符、スラー、フェルマータ等の記号の意味を理解し、歌うことが出来つつある。 ○リコーダーでは、基本のラとシから音域を広げ、大体の児童が下のドから上のシまでの連指を覚えられた。 ○曲を聴いて感じたことをしっかり文章で表現出来ている児童が多かった。 ○歌うことに最初は抵抗を示す児童が多かったが、しっかり声が出てくるようになった。</p>	<p>【習得と活用】 ○歌唱ではよりよい歌声を出せるように声かけをする。 ○リコーダーでは息の入れ過ぎに注意し、きれいな音を意識させる。 【補充的・発展的な指導】 ○曲を聴いて、曲の表現方法や音色の違い、変化に気付けるように促す。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎それぞれの曲に合った表現方法を意識し表現することで音楽の楽しさや良さを感知、前向きに取り組めるようにする。【学習習慣2】</p>
第4学年	<p>【成果】 ○楽譜の仕組みを繰り返し学習することで、正しく理解し、知識が定着し、活用する力につながった。 ○筆の学習を通して、日本の伝統的な音楽に興味関心をもつことができた。 【課題】 ○グループワークなどを活用した学習では、学習に取り組む態度や、技能知識の定着度に個人差があり、学習の効果が均等ではなかった。 ○学習したことや感じ取ったことを言語で表現するための語彙力が十分ではなかった。</p>	<p>【現状と課題】 ○楽譜の仕組みを理解し、読譜する力を付けることができた。しかし個人差が大きく、全員に定着を図ることはできなかった。 ○コロナ禍において呼吸を使用する器楽表現の学習の時間が十分確保できず、器楽表現(リコーダー)の演奏技能の習得が不十分であった。 ○感じたこと、思ったことを、言語で表現し伝え合ったり、深め合ったりすることが十分でなかった。 ○グループ学習などの機会を通して、表現を工夫しながらオリジナリティのある音楽表現を経験することのできる場を設定できなかった。</p>	<p>【習得と活用】 ○楽譜の仕組みについて理解することができているが、個人差をなくすために、フラッシュカードなどを活用して常時活動に取り入れ定着を図る。 ○伝統音楽(和太鼓)の学習を推進し、日本の音楽について、楽器の正しい奏法を理解し、演奏技能を習得する。 【補充的・発展的な指導】 ○音楽の要素とそれを表現する言語のヒントを得ることができるよう、音楽室にそのヒントなどを掲示し、頻繁に引用しながら学習することで、感じたこと思ったことを表現できる手立てを増やしていく。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎多様な音楽に触れる機会をもつことで、ほかの教科・分野などと音楽のかかわりを感じ、さらに興味関心をもって学習を進めることのできる姿勢を育んでいく。【学習習慣6】</p>
第5学年	<p>【成果】 ○学習の題材によって、ICTを活用した家庭学習を取り入れた。これによって、個別に自分にあった進度を見直し自身が選択しながら学習を進めることができた。 ○日本の伝統楽器(箏)とハワイの民族楽器(ウクレレ)の学習を通して、世界の文化と日本の文化を比較し広い視野を養うことができた。 【課題】 ○グループワークなどを活用した学習では、学習に取り組む態度や、技能知識の定着度に個人差があり、学習の効果が均等ではなかった。個別対応の充実が必要。 ○学習したことや感じ取ったことを言語で表現するための語彙力が十分ではなかった。</p>	<p>【現状と課題】 ○世界の音楽(ウクレレ)を学習し、正しい奏法を理解し、旋律に合わせて演奏することができるようになった。 ○コロナ禍において制限され、3・4年時において呼吸を使用する器楽表現の学習の時間が十分確保できず、リコーダーの演奏技能の習得が不十分であったことで、進度が遅れている。 ○学習したことを友達同士で共有したり、話し合ったりして、学習を深める機会を設定するのが難しかった。 ○呼吸を使う歌唱・器楽表現の学習において、音色を聴き合い表現する活動の設定が困難であった。 ○ウクレレの学習を通して、世界の国々や多様な音楽の分野に興味関心を持ち、楽しみながら協働して学習する姿が見られるようになった。 ○多様な文化背景をもつ音楽に触れることで、芸術文化に興味関心をもつことができるようになった。</p>	<p>【習得と活用】 ○リコーダーの学習については、感染対策でこれまでの不十分だった部分を計画的に補って学習を進める。 ○楽譜の仕組みについて理解することができているが、個人差をなくすために、フラッシュカードなどを活用して常時活動に取り入れ定着を図る。 【補充的・発展的な指導】 ○学習したことが様々な人たちと共有する機会を通して、表現することへの楽しさや喜びを体感し、主体的に学習することができるようになる。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎学習内容をより深めるために、グループで表現をどのように工夫するか、なぜそのように表現するのかを考えながら表現活動を行うことができるように場を設定する。【学習習慣5】</p>
第6学年	<p>【成果】 ○学習の題材によって、ICTを活用した家庭学習を取り入れた。これによって、個別に自分にあった進度を見直し自身が選択しながら学習を進めることができた。 ○楽譜の仕組みを正しく理解し、それを活用することで、自分で工夫しながら学習を進めようとする姿勢がみられるようになった。 【課題】 ○グループワークなどを活用した学習では、学習に取り組む態度や、技能知識の定着度に個人差があり、学習の効果が均等ではなかった。個別対応の充実が必要。 ○学習したことや感じ取ったことを言語で表現するための語彙力が十分ではなかった。</p>	<p>【現状と課題】 ○感染症対策により実習ができないため、技術の定着が難しい。家庭との連携をさらに強くなる必要がある。 ○実物を用いた導入によって、児童がより問題と自分のこととして身近に感じることができ、問題解決学習を通して目指す資質・能力に迫ることができた。 ○家庭での洗濯や料理のことなど、事前にインタビューさせることにより、自分の家庭のこととして問題を考えることができていた。</p>	<p>【習得と活用】 ○自国の伝統音楽(箏)の学習を通して、正しい奏法を理解し、実践する力を付ける。 ○楽譜の仕組みについて理解することができているが、個人差をなくすために、フラッシュカードなどを活用して常時活動に取り入れ定着を図り、実際の楽曲と合わせて提示しより活用できるようにする。 【補充的・発展的な指導】 ○世界の音楽から自国の伝統音楽につながりを感じながら、多様な視点で音楽全般をとらえ、学習を深める力を付けさせる。 ○習得した知識や技能を実際に楽曲を器楽で演奏したり、歌唱したりする際に活用し、豊かな表現につなげることができる機会を設定していく。 ○最高学年として学習したことを異学年交流を通して他学年に発信しながら深める機会を設定していく。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ○学級、学年、異学年と交流、協働しながら、思いをもって表現することのすばらしさ、楽しさを体験し、生涯音楽を愛好する姿勢を育んでいく。【学習習慣6】</p>

三鷹市立井口小学校 令和5年度【 図画工作 】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○粘土、砂場遊び、折り紙、ハサミ、クレヨン、絵具、造形遊びと学期ごとに様々な学習内容の経験をさせることができた。</li> <li>○1学期は、遊びながら基礎基本の学習を行ったため、その経験が次の学習に生かされているのが感じられた。</li> <li>○音楽を流したり、児童が工夫できるような材料を準備したりと、環境づくりも工夫できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○できた作品を見合ったり、遊んだりする時間をもう少し確保できたらよかった。</li> <li>○作品が時間内に仕上がらなかったり、片付けが間に合わなかったり、アイデアが思い浮かばない児童への声掛けに工夫が必要である。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な技法を使って、作品作りを行うことができた。</li> <li>○身に付けさせたい技能を楽しみゲーム感覚の活動を通して身に付けることができた。</li> <li>○技能面においても、発想面においても個人差が大きいことが課題である。</li> <li>○全身を使った造形活動を2学期以降取り入れていきたい。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○導入で今日行う活動のイメージをもたせ、意欲的に取り組むことができるようにする。</li> <li>【補充的・発展的な指導】</li> <li>○個人差が大きいので、グループ製作を取り入れ、他者のよさを取り入れたり、自信をもって作成したりすることが容易にできるようにする。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○作品をつくった際は、友達同士で見合う時間を設け、よさを学んだり、次回に生ずることができるようにする。【学習習慣2】</li> </ul>
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○液体粘土やカッターなど様々な材料や道具を使うことで、その物の特徴や安全な使い方が身に付いた。</li> <li>○一人ひとりの作品のよさを全体の中で取り上げることで、表現力が向上した、また製作に困っている児童には、アイデアの参考になった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞の際どんな視点で鑑賞するとよいか曖昧になり、抽象的な表現が多く見られた。</li> <li>○タブレット端末のおかげで模写する力が向上したが、自分でイメージしてオリジナルの作品を作りだすことに課題がある。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○クレヨンや絵の具の新しい使い方を学習しながら、表現の違いを楽しんだり感じとったりしている。はさみや接着剤の使い方は反復して使うことで慣れ、身に付けていく。</li> <li>○自由にのびのび発想を広げ、表したいことや表し方を楽しく考えられる児童が多い。表したいことが見付からない、表し方のイメージがつかめない場面が一部ある。</li> <li>○思いをもって表現したり、友達の作品を見たりすることを自然に一体化しながら楽しく活動している。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自由な発想が生きる題材設定をし、表したいことや表し方を考えやすいように師範を行う。声掛けや会話、資料提示等で支援を行う。</li> <li>【補充的・発展的な指導】</li> <li>○一人ひとりが主体的に表現活動に取り組めるように配慮して声掛けや支援を行う。鑑賞の方法を工夫して、発表型で友達の作品や友達の思いに触れる機会をつくる。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○楽しみながら手や体全体の感覚を働かせて画材や用具を使ったり、表し方を工夫したりできる題材や活動を取り入れていく。【学習習慣2】</li> </ul>
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○木工やハリコ絵など幅のある表現にふれ、意欲的に取り組むことができていた。</li> <li>○タブレット端末上での鑑賞、コメントの入力を習得した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞やコメント入力のマナー・ルールの徹底が必要。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しみながら意欲的に取り組んでいる児童が多い。</li> <li>○新しいことに挑戦していく力がある。</li> <li>○クラスごとに差はあるが図工室・教室での作業に集中できないときがある。</li> <li>○個別対応が必要な児童が多く、教員1名では手が足りない状況がある。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道具の使い方を繰り返し説明し、技術の習得につなげている。</li> <li>○板書は学年の状況に合わせてわかりやすくまとめ、児童が作業の内容を振り返れるようにする。</li> <li>【補充的・発展的な指導】</li> <li>○担任と連携しながら、どうすれば落ち着いて授業に取り組めるのか各クラスの児童理解を深めていく。</li> <li>○空き時間の先生に声をかける、SSSIに依頼するなどして、カッターやのこぎり、危ない道具を使うときは児童を見守る大人の目を増やしていく。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○鑑賞の時間は発表者のほうを見て静かに聞く。コメントを入力する際は丁寧な言葉を使う。【学習習慣2】</li> </ul>
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○モダンテクニックを活用するなど、様々な技法を応用しながら自分の世界を表現することに慣れてきた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵画では模写を好む傾向が強く、オリジナルのある表現に慣れていない。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ活動を取り入れ授業内で他者と関わる機会を増やした。楽しみながら意欲的に取り組んでいる児童が多い。</li> <li>○タブレット端末のルールやマナーが守れていない児童が多い。それが原因で授業に集中できない。</li> <li>○友達関係の問題で作業を中断する場面が見られた。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット端末のルール・マナーについて共通理解し、専科の授業でも学年の基準に沿って指導を続ける。</li> <li>○道具の使い方を繰り返し説明し、技術の習得につなげている。</li> <li>【補充的・発展的な指導】</li> <li>○担任と連携しながら、どうすれば落ち着いて授業に取り組めるのか各クラスの児童理解を深めていく。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○鑑賞の時間は発表者のほうを見て静かに聞く。コメントを入力する際は丁寧な言葉をつかう。【学習習慣2】</li> </ul>
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○土偶や電動糸のこぎり、スプレーアートなど幅のある表現に意欲的に挑戦することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○長時間や長期間の作業に慣れていない。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット端末を活用しアニメーション作品に挑戦した。楽しみながら意欲的に取り組んでいる児童が多い。</li> <li>○全体説明だけでは手順が分からず困り感をもつ児童が複数人いる。導入時や作業開始時に個別対応が必要。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用しながらいつでも手順の復習ができるようにしておく。</li> <li>【補充的・発展的な指導】</li> <li>○タブレット端末で授業に関係のないことをしてしまう児童には作業工程のプリントやワークシートを配り対応していく。</li> <li>○導入時の説明を簡潔に済ませ、個別に対応していく時間を確保する。</li> <li>○空き時間の先生に声をかける、SSSIに依頼するなどして、カッターやのこぎり、危ない道具を使うときは児童を見守る大人の目を増やしていく。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○鑑賞の時間は発表者のほうを見て静かに聞く。コメントを入力する際は丁寧な言葉を使う。【学習習慣2】</li> </ul>
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水墨画や陶芸など特殊な技術を学びながら楽しく取り組むことができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業中に関係のない動画や画像を見るなど、タブレット端末の扱いに注意が必要な児童がいる。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○陶芸やゴム版画など既習の技術を生かしながら楽しく取り組むことができた。</li> <li>○工芸や工作にとっても意欲的で興味関心の幅が広い。</li> <li>○全体的に複雑な作業や長時間集中することに慣れていない。</li> <li>○一人で作業することに集中できない。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用しながらいつでも手順の復習ができるようにしておく。</li> <li>【補充的・発展的な指導】</li> <li>○毎時間、授業内で何をやるのかを明確にし、集中する時間にメリハリをつける。</li> <li>○既習の学びも取り入れながら新しい技法に挑戦させる。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○鑑賞の時間は発表者のほうを見て静かに聞く。コメントを入力する際は丁寧な言葉を使う。【学習習慣2】</li> </ul>

三鷹市立井口小学校 令和5年度【家庭】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年			
第4学年			
第5学年	<p>【成果】</p> <p>○学校の調理実習で行った後、家庭で一人で行う課題を出したことで、調理の技能や知識の定着につながった。</p> <p>○調理の仕方やミシンを使った作品作りでは、動画と実物見本両方を使って学習を進めたことで、児童の意欲や技術向上につながった。</p> <p>【課題】</p> <p>○各単元で学習したことを自分の家庭生活と結び付けて考えたり、実践したりできている児童は少ない。</p>	<p>【現状と課題】</p> <p>○手縫いの技能の個人差が大きい。</p> <p>○調理の方法や手順を確認して、グループで協力して調理実習を行うことができた。</p> <p>○課題を解決するための方法を考えたり、実践を振り返ったりすることが苦手な児童がいる。</p> <p>○家庭科の学習に興味・関心をもち、家庭生活の中で自分の役割を増やそうと、意欲的に学習に取り組む児童が多い。</p>	<p>【習得と活用】</p> <p>○手縫いやミシン縫いの技能を身に付けさせるために、実物や動画を活用する。</p> <p>○単元ごとの課題を明確にし、活動の工夫や振り返りをしっかりと行うことで、学習したことを家庭生活でも実践しようという意欲につなげられるようにする。</p> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <p>○調理実習を行った後に、家庭で取り組む課題を出すことで、調理の技能や知識の定着を図る。</p> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <p>○課題解決の方法や実践の振り返りを、グループで考えたり教え合ったりする時間を設定する。【学習習慣2】</p>
第6学年	<p>【成果】</p> <p>○家庭に協力を仰ぎ、実践を多くとったことで、「自分の家では」と、自分事として学習に向かうことができた。</p> <p>○最終的に調理実習をすることができ、児童の意欲向上につながった。</p> <p>【課題】</p> <p>○家庭ごとに協力への度合いが違い、それが実践意欲に如実につながってしまった。</p>	<p>【現状と課題】</p> <p>○昨年度、学校で実習の一部を行うことができなかったため、基本的な技能の習得に配慮する必要がある。</p> <p>○家族に聞き取ったり、自分の普段の生活状況を振り返ったりして、実践につなげて考えようとする児童が多い。</p> <p>○家庭での衣食住について関心をもち、課題を自分の事として考えられる児童が多い。一方で、自分の考えや気付いていることなどをすすんで伝えられる児童は多くない。</p>	<p>【習得と活用】</p> <p>○調理実習を行う際は第5学年の学習内容にさかのぼって事前指導を手厚く行う。また、調理器具の使い方や調理への関心を引き出し、家庭での予習・復習を促す。</p> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <p>○少人数グループでの学び合いやタブレット端末を活用した意見交流を行うことで他者の考えを知り、自分の学びを自ら深めたり広げたりできるようにする。</p> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <p>○自分の生活を更によくする為の方法を考える機会を多くし、自分の生活を見直し、工夫して生活しようとする思考を身に付けさせる。【学習習慣4】</p>

三鷹市立井口小学校 令和5年度【体育】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○知識技能を明確にして計画に沿って指導することで各領域で身に付ける多種多様な動きを習得できた。</li> <li>○1学期の終わり頃より、チェックだけでなく、自由記述欄を足したワークシートで振り返ることで思考・判断・表現の力が伸びた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動が苦手な児童への対応を十分に研究する必要がある。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年で指導の行い方を共有し、共通理解をもって指導することができた。</li> <li>○天候の関係で、ゲーム領域の単元に取り組む機会が少なかった。</li> <li>○鉄棒を使った運動遊びや水遊びでは、これまでの運動経験や個人の能力の差が大きい。</li> <li>○1学期は、まずは運動に親しむことに重点を置いたため、動きのコツやポイントを見付けたり、考えを伝えたりする機会が少なかった。</li> <li>○友達と仲良く運動することの楽しさを味わえた児童が多い。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○引き続き、学年で指導の行い方を共有し、ねらいをもって授業を進めていく。</li> <li>○児童にとって魅力的な遊びの場を設定し、遊びながら自然と動きを身に付けられるようにする。</li> <li>○友達と動きを見合う機会を意図的に設定し、よい動きを見付けて伝えたり、自分の動きに取り入れられたりすることができるようにする。</li> <li>○ゲーム領域の学習を計画的に行い、規則を守って運動することや勝敗を受け入れる力を育む。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体育の授業だけでなく、休み時間や放課後遊びで鉄棒や固定遊具で運動するよう働き掛け、運動経験を積み重ねられるようにする。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○2学期の後半や3学期には、必要に応じて学習カードを取り入れ、考えたことを記したり、教師が見取って次々以降の指導に活かしたりできるようにする。</li> <li>【学習習慣3】</li> </ul>
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間めあてを提示することで、各領域で身に付けるべき基本的な動きを身に付けることができた。</li> <li>○学習カードを活用することで、チームで作戦を立てることができた。また、個別に立てためあてについて振り返りを行うことができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○勝敗を認められない児童や、運動が苦手な児童への指導を工夫することが必要である。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な運動遊びを通して体を動かすことの楽しさを知ることができた。</li> <li>○動きを工夫するためにどうするか考えて活動することで基本的な動きを身に付けることのできる児童が多い。</li> <li>○指示された活動を行うことができるが、児童が活動方法を工夫したり、自分自身のめあてをもって活動したりする場面が少ない。</li> <li>○体育の授業を楽しみ、意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>○決まりを守ったり、安全に気を付けたりして、取り組む児童が多い。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の動きが広がるような活動の提示を工夫したり、ワークシートを作ったりする。</li> <li>○幅広く様々な運動や遊びを経験させ、基本的な動きを身に付けることができるようにする。</li> <li>○運動遊びを通して、順番や決まりを守ることや協力する大切さに気付けるよう、言葉掛けを行う。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体育の授業だけでなく、休み時間や放課後遊びで鉄棒や固定遊具で運動するよう働き掛け、運動経験を積み重ねられるようにする。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○友達と動きを見て、やりたいと思った動きや遊びなどを学習カードに記入し振り返る。【学習習慣2】</li> </ul>
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症対策の制限が緩和され、友達とかかわり合って運動する機会が増えた。チーム対抗のゲームも行うことができ、初めは揉めることが多かったが、友達と仲良く運動する楽しさや折り合いをつけることを学ぶことができた。</li> <li>○チームで作戦を立てたり、動きのコツを考えたりしながら運動し、技能を少しずつ高めていた。</li> <li>○経験が乏しかった運動にも少しずつ触れ、運動感覚を養うことができた。</li> <li>○学年で単元ごとに学習の進め方を共有し、同じ方向性で指導することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○天候や体育館が使用できない期間があるため、計画的に学習を進めていくことが必要である。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動能力に個人差があり、特に筋力・筋持久力に課題がある。</li> <li>○自分の課題からめあてを立て、解決することを苦手とする児童が多い。</li> <li>○運動のポイントなど、考えていることを伝える経験が少なかった。2学期以降は、学び合いの機会を増やす必要がある。</li> <li>○体を動かすことが好きで、体育の学習に一生懸命取り組む児童が多い。一方、運動が苦手で、活動に取り組むことができない児童もいる。</li> <li>○「勝ち」にこだわる児童への指導の工夫が必要である。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主運動につながる感覚づくりの運動を意図的に取り入れ、必要な技能を効率的に身に付けさせる。</li> <li>○ICT機器を活用し、児童が自分の運動している様子を確認したり、映像を見せながら友達と教え合ったりする活動を設定する。</li> <li>○勝敗を受け入れることや規則を守ることに課題が見られる児童に、みんなで気持ちよく活動するために何が大切かを考えさせたり、個別指導による言葉掛けをしたりして、継続して指導を行う。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習資料や映像などを掲示・活用し、その運動の特性を押さえて授業研究をし、運動が苦手な児童でも熱中して取り組めるような規則の工夫や場の設定をよく吟味した授業づくりを行う。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○自分の課題をつかみ、解決できるような掲示物などを示したり、運動に対する振り返りをする活動を位置付けたりする。学習カードを活用し、運動の特性に応じた課題をもって動きや技能を身に付けられるようにする。【学習習慣3】</li> </ul>
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の課題に合わせて場づくりをして活動に取り組むことができた。</li> <li>○ICT機器の動画撮影を活用して、自身の課題に気付き、友達にアドバイスをしやすくなった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校庭で2クラス同時に行う時に学習内容によっては、道具が足りないことがあった。事前に行う単元を入れ替えるなどの検討が必要。</li> <li>○3学期に展覧会があったため体育館での活動時間がとても少なかった。来年度は学芸会があるため、その時期を考えて年間指導計画を立てる必要がある。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍で難しかった運動の経験値を上げることを意識し、多様な運動ができるようにした。単元を通して技能を身に付けることができたが、運動した動きを十分に習得できていない。</li> <li>○助け合ったり、話し合ったりする機会を意図的に増やした。協力し合う学習は今後も意図的に設定していく。</li> <li>○ワークシートを活用した。自分が上達できた点や不十分な点を確認したり、課題に対する改善策を考えたりする活動が不十分である。</li> <li>○入学以来3年間、運動制限があったが、児童同士がかかわり合いながら運動することが日常になり、どの子も楽しく運動している。声掛けをしようにする児童が増えてきた。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行事の時期を考え、バランスよく運動ができるようカリキュラムを調整していく。</li> <li>○学習カードやICT機器のデータを活用など、それぞれの学習に合わせて吟味していく。</li> <li>○互いに見合う場や作戦を練る場を設定し、児童同士での教え合いや声掛けが増えていくようにする。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個に合わせて多様な運動経験ができるように、場の工夫や運動量の確保、ICT機器の活用を継続して行っていく。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○運動の特性やポイントをしっかり指導し、その上で自分に合わせてスモールステップで取り組んでいけるように工夫していく。【学習習慣6】</li> </ul>
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動の楽しさや喜びを味わいながら、主体的に取り組む姿が見られるようになった。</li> <li>○跳び箱運動で、ICT機器を効果的に活用しながら、ペアで学び合うことができた。</li> <li>○学習カードの振り返りを通して、体の動きを意識しながら運動の技能を高めることができるようになった。</li> <li>○学習カードを書くことで、児童一人ひとりの思考を評価することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童のそれぞれの個の課題解決に応じた場を十分に用意することができなかった。</li> <li>○運動の種目によっては、技能面に指導の重点が偏ってしまった。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動のコツなど知識として分かっている児童は多くいるが、技能として定着している児童は少ない。</li> <li>○体の運動が必要な動き（投げる動きなど）は特に苦手としている。</li> <li>○動きのコツなどを言語化することが難しい。</li> <li>○うまくいくまでひたすら試技をして、なぜうまくいったのかを説明することが難しい。</li> <li>○多くの児童が体を動かすことを楽しんでいる。</li> <li>○運動に対する苦手意識のある児童は自ら挑戦することに抵抗があり、粘り強く取り組み続けることが難しい。</li> <li>○勝ち負けにこだわり、自分が楽しむことに終始している児童がいる。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○体を意図的に動かす活動を帯で取り入れる。</li> <li>○体の動きを細分化し、段階的に動きを増やしていくことで運動した体の動きを身に付けられるようにする。</li> <li>○場の設定を工夫して「痛み」や「恐怖」を軽減し、積極的に試技できるようにする。</li> <li>○ゲームのルールや難易度を平易にすることで、どの児童も参加できるようにする。</li> <li>○友達と動きに目を向けさせてアドバイスをさせる。その姿を価値付け、学ぶ合うことの心地よさを感じられるようにする。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の到達度と課題を把握するためにICT機器による手本動画や、ルーブリックを活用して個に応じた学習資料を実現する。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○多様な場の設定をすることで、児童が自分の課題を解決するために必要な練習を考え、選んで取り組むことができるようにする。【学習習慣4】</li> </ul>
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○できる児童が苦手な児童にアドバイスをし、友達と協力して活動に取り組むことができた。</li> <li>○ICT機器で動画を撮影し、撮影したものをしながら意見交換を行うことで自分の考えを共有できる場を作ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チーム内での作戦を立てる際に話し合いがうまくいかなかった。</li> <li>○ワークシートの振り返りを効果的に活用できなかった。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○技能差がある運動では、チームの力が均等になるようにチーム分けを行って学習に取り組むことができた。</li> <li>○保健の学習で知識が確実に身に付けられるように工夫が必要。</li> <li>○振り返りをよく書けている児童を紹介し、価値付けすることで振り返りを書くことの大切さを全体に周知した。</li> <li>○チームやトリオ学習に取り組む時には教え合い、学び合いを大切に、学習活動に取り組むことができた。</li> <li>○誰もが楽しめるゲームを多く取り入れることで楽しみながら取り組む姿が多く見られた。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動（マットや鉄棒、跳び箱など）に合わせて、ICT機器を活用し、自己の課題をつかめるようにする。</li> <li>○保健の学習では、単元の終わりに学んだことが身に付いているかクイズ作成アプリなどを活用して習熟を図る。</li> <li>○ペアやチームで作戦タイムなどの話し合い活動をする様子を積極的に見取るようにする。</li> <li>○ワークシートの振り返りを具体的に書くように引き続き言葉掛けを行う。</li> <li>○誰もが楽しめる学習活動になるように、児童の実態をしっかり把握して、ゲームのルールメイキングをする。</li> </ul> <p>【補足的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の課題に合わせて学習の場を選べるように、様々な場所を設定する。</li> <li>【三鷹『学び』のスタンダード】</li> <li>○ICT機器で動画を撮影し、撮影したものをしながら、友達同士で課題を共有することで力を伸ばせるようにする。【学習習慣2】</li> </ul>



三鷹市立井口小学校 令和5年度【生活】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>【成果】</p> <p>○体験活動の内容・方法を工夫し、今年の状況に合わせた探究的な学習の指導計画に沿って授業を進めることができた。</p> <p>○児童が意欲をもてるように季節ごとの体験活動を取り入れ、題材、導入を工夫することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○調べ学習で活用できるようにタブレット端末の基本的な使い方を段階的に指導していく必要がある。</p>	<p>【現状と課題】</p> <p>○学校探検では、2年生との交流で個々の気付きをもち、それぞれの視点で2回目の学校探検に臨むことができた。</p> <p>○学校に関わる人への視点をもつことができなかった。</p> <p>○あさがおの観察では、気付いたことやあさがおへの気持ちを書くことができた。</p> <p>○観察したことや体験したことを絵で表現することに対して、消極的な児童が見られた。</p> <p>○あさがおの栽培活動では、大切に育てようと毎日水をあげたり、休み時間に様子を見たりする姿が見られた。</p> <p>○栽培活動には個人差が見られ、夏休み前に枯れてしまいそうな児童も見られた。</p>	<p>【習得と活用】</p> <p>○季節ごとの学習では、第二小学校との交流を行い、相手意識をもたせ、学習に対する意欲を高める。</p> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <p>○1学期にできなかった学校に関わりのある人と交流できる活動を設けることで、身の周りの人への視点をもてるよう工夫していく。</p> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <p>◎「なつをたのしもう」の学習で、自分たちで遊具を作らせていくことで、分からないことはそのままにせず、自分でも調べたり考えたりする習慣を身に付けさせる。【学習習慣4】</p>
第2学年	<p>【成果】</p> <p>○町探検の発表等でタブレット端末を使うことで、ICT機器の活用方法や発表の方法や伝え方を身に付けることができた。</p> <p>○町探検や自分の成長を調べる際に、訪問やインタビュー活動を行うことで主体的な姿が見られた。</p> <p>【課題】</p> <p>感染症対策で、体験的な活動に制限があった。四季を感じられる体験活動の内容や場所の検討が必要。</p>	<p>【現状と課題】</p> <p>○調べ学習や、活動で得た情報を発表することを経験していく必要がある。</p> <p>○町探検や観察等で視点をもって活動に取り組むことができず、気付いたり発見することができない児童がいる。</p> <p>○町探検や観察等で発見したことや気付いたことを、ワークシートにどのように表現したよいか分からない児童がいる。</p> <p>○1年生との交流では、1年生を楽しませるためにどうするか考えて積極的に活動するなど、上級生としての自覚が芽生えはじめた。</p> <p>○植物や昆虫、魚などの生き物に関心をもち、世話をしようとしている児童が多い。その反面、生き物の状態や成長に合わせて世話することがうまくできない。</p> <p>○自分の生活している町に関心をもち、探検の活動に意欲的に取り組む姿が見られる。</p>	<p>【習得と活用】</p> <p>○体験活動と表現活動を繰り返す学習過程を探究的なプロセスの中に位置付け、発見したことから、どんなことに気付き何を考えればよいか分かるようにする。</p> <p>○やってみたい、調べてみたいという意欲をもてる教材を提示し、その意欲から活動につなげていけるようにすることで、主体的で対話的な学習をすすめる。</p> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <p>○調べたことを発表するいろいろな方法を学び、活発に伝え合うことで経験値を上げる。</p> <p>○生活科「なつやさいをそだてよう」と国語科「かんさつしたことを書こう」、算数科「ながさ」など、他教科と関連して活動を行う。</p> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <p>◎検索の方法やプレゼンアプリの使い方などを学ばせるとともに、自分の考えをまとめる時間を十分に設けることで、情報活用のスキルを身に付けさせ、考えたり調べたりしたことを文章にまとめる習慣を育む。【学習習慣3】</p>
第3学年			
第4学年			
第5学年			
第6学年			

三鷹市立井口小学校 令和5年度【外国語】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年			
第4学年			
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○chant'sを積極的に活用することで、リズムで文章を覚えたり、楽しんでコミュニケーションをとったりしている児童が増えた。</li> <li>○児童にとって身近な題材や場面を設定したことで、意欲的に取り組む児童が増えた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アルファベット指導に多くの時間をさけなかったため、4本線の使い方があいまいな児童がいる。</li> <li>○学習した文章を大まかに覚えているため、前置詞が抜けている児童がいる。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の活動では、正しい文を使ってコミュニケーションをとることができるが、パフォーマンステストでは、正しい文で答えられなかったり、単語のみで答えていたりする児童が多い。</li> <li>○習ったことを活用して自分の伝えたいことを表現できる。</li> <li>○前の単元の表現が定着せずに、正しく使えない児童がいる。</li> <li>○習った表現を使って積極的にコミュニケーションをとろうとしている。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本文や単語を復習する時間を設定し、対話がより活発になるよう、児童にとってより身近な場面を組み立てる。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し、聞く、話す、書くの活動を通して、表現に慣れ親しみ、実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けさせるようにする。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて自分の考えや気持ちを伝え合えるよう、ショートスピーチなど対話がより活発になる場を設定する。【学習習慣2】</li> </ul>
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童同士で対話する機会を毎回設けたことで、伝えるという意識の定着と、英語を話すことへの抵抗感がなくなった。</li> <li>○伝えることができるようになり、聞き取り（理解）ができる児童が増えた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○正しいスペルで書けない児童がいる。</li> </ul>	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ほとんどの児童がパフォーマンステストでは、よい結果を出すことができる。</li> <li>○身に付いていない児童との差が激しいので、授業の中でまだ身に付けられていない児童へのサポートが必要である。</li> <li>○パフォーマンステストでは自分の伝えたいことを表現することができている。</li> <li>○交流する活動では、すすんでコミュニケーションをとる姿が見られる。</li> </ul>	<p>【習得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の始めに英語で基本的なやり取りをする会話を取り入れて、定着を図るようにする。</li> </ul> <p>【補充的・発展的な指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習している内容をゲーム性のある活動の中で使い、楽しみながら取り組めるようにする。</li> </ul> <p>【三鷹『学び』のスタンダード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎聞かれていることや場面に合わせて、自分の考えを英語で表現できるようにする。発表や交流する場面を設けることで理解を深める。【学習習慣2】</li> </ul>

三鷹市立井口小学校 令和5年度【道徳】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p><b>【成果】</b>                      ○教材を吟味したり、発問を工夫したりすることで、読み物教材の登場人物に自我関与して自分事として考えながら、意欲的に取り組めた。                      ○友達の見聞を聞くことで、多面的、多角的に考えることができた。                      ○じっくりと自分を振り返るための時間を確保したことで、価値に対して考えを深めることができた。</p> <p><b>【課題】</b>                      ○児童が主体的に取り組めるように、指導方法を更に改善、工夫していく必要がある。(導入や資料提示の工夫)                      ○書く力に個人差があるので、どこまで自己の振り返りができているのか把握が難しい。自分の考えを書く以外の方法でも表現できるように、工夫する必要がある。</p>	<p><b>【現状と課題】</b>                      ○登場人物の気持ちを考えることを通して、ねらいについてじっくりと考えることができる児童が多い。                      ○自分の考えを発表することができる。                      ○経験が少ないため、自分事として捉えることに個人差がある。                      ○書く力に個人差があるので、考えを言語化することが難しい。そのため、どこまで自己の振り返りができているのか把握が難しい。</p>	<p><b>【習得と活用】</b>                      ○授業を通して、自分の考えを書くことを行い、学習したことについてじっくりと考える機会を設ける。                      ○自分の考えをペアやグループで伝え合うことで、全員が発表し、聞く場をつくる。</p> <p><b>【補充的・発展的な指導】</b>                      ○タブレット端末のアンケート機能で考えを示すことを行う。</p> <p><b>【三鷹『学び』のスタンダード】</b>                      ○授業を通して、自分の考えを書くことを行い、学習したことについてじっくりと考える機会を設ける。【学習習慣3】                      ○自分の考えをペアやグループで伝え合うことで、全員が発表し、聞く場をつくる。【学習習慣2】</p>
第2学年	<p><b>【成果】</b>                      ○中心発問においては、個々で考え、考えたことを伝え合う時間を十分に確保することで、学びを深めることができた。                      ○自分自身の今までの言動を振り返り、今後自分はどうしたいのか深く考えられる児童が増えた。</p> <p><b>【課題】</b>                      ○毎時間、振り返りをするには慣れてきたが、「めあて」に沿った振り返りになっていないことも見られた。                      ○児童の変容の見取り方の工夫が必要である。</p>	<p><b>【現状と課題】</b>                      ○登場人物の気持ちになって考えられる児童は多い。                      ○学習で得た考えを日常生活と結び付け、自分自身の生活をしっかり振り返ることができない児童もいる。                      ○話し合いの場面で、自分の意見をなかなか発表できず、発表者が限られてしまう。                      ○資料で考えたことが、振り返りのワークシートに記入できない児童もいる。</p>	<p><b>【習得と活用】</b>                      ○児童が資料を十分に理解し、登場人物に共感できるよう、指導方法を工夫する。(役割演技・発問・ワークシート・板書)                      ○学習の初めに、ねらいとする道徳的価値について押さえる。資料から得た考えを自分とのかかわりで捉えさせ、自分を見つめ直すようにする。</p> <p><b>【補充的・発展的な指導】</b>                      ○全員が意見を言うようにグループ→全体で発言できる場を設ける。                      【三鷹『学び』のスタンダード】                      ○全員が意見を言うようにグループ→全体で発言できる場を設ける。【学習習慣2】                      ○児童が考えを深めることができるよう、ワークシートの形を工夫し、書く時間を確保する。【学習習慣1】</p>
第3学年	<p><b>【成果】</b>                      ○活動を工夫することで、一人ひとりが意見を言いやすい状況をつくることができた(役割演技、ペア交流、BGMの活用)。                      ○自分自身の今までの言動を振り返り、今後自分はどうしたいのか深く考えられる児童が増えた。</p> <p><b>【課題】</b>                      ○毎時間、振り返りをするには慣れてきたが、「めあて」に沿った振り返りになっていないことも見られた。ねらいを明確にして、発問を精選する。</p>	<p><b>【現状と課題】</b>                      ○読み物教材の登場人物に自我関与して自分事として考えながら取り組むことができた。                      ○友達の見聞を聞くことで、多面的、多角的に考える児童もいる。                      ○価値に対しての自分自身をじっくりと振り返り、考えを深めていた。                      ○自分の考えを発表できない児童も多く、発表者が限られてしまう。                      ○書く力に個人差があるので、書けない児童がどこまで自己の振り返りができているのか把握が難しい。</p>	<p><b>【習得と活用】</b>                      ○児童が主体的に取り組めるように、指導方法をさらに改善、工夫していく必要がある。(導入や資料提示の工夫)</p> <p><b>【補充的・発展的な指導】</b>                      ○ペアやグループでの交流など、全体に発表できない児童への手立てを行う。                      ○自分の考えを書く以外の方法でも表現できるように、工夫する必要がある。また、振り返りの用紙を小さくし、書く量を減らすなどの手立ても行う。                      【三鷹『学び』のスタンダード】                      ○ペアやグループでの交流など、全体に発表できない児童への手立てを行う。【学習習慣2】                      ○自分の考えを書く以外の方法でも表現できるように、工夫する必要がある。また、振り返りの用紙を小さくし、書く量を減らすなどの手立ても行う。【学習習慣3】</p>
第4学年	<p><b>【成果】</b>                      ○振り返りに書いてある内容から自分の生活に生かしていることを見られた。                      ○導入を工夫したり、掲示物を効果的に活用したりして、授業を行うことができた。(掲示物はワークシートとして残している)                      ○交流活動を取り入れることで考えを深め、広げることができた。</p> <p><b>【課題】</b>                      考えたことを普段の生活レベルにまで生かしているように学習後も価値付けを行っていくことが必要。</p>	<p><b>【現状と課題】</b>                      ○教材の登場人物の気持ちに共感したり、自分事として考えを深めることができた。                      ○友達の見聞を聞き、自分の考えと比較しながら、多様な考えを受け入れることができた。                      ○発言が得意でない児童や、振り返りを書くことが苦手な児童がいる。                      ○学んだことを自分事として日常生活に落とし込むことにはつながっていない。</p>	<p><b>【習得と活用】</b>                      ○教科横断的な授業計画を立て、学習内容を振り返ることができるような場面やきっかけをつくる。</p> <p><b>【補充的・発展的な指導】</b>                      ○役割演技を取り入れた発問を工夫したりすることで、個人→グループ→全体と交流を広げクラスの全員が参加出来るようにする。                      ○全員が振り返りを記入できるように十分な時間を確保したり、ワークシートの様式を工夫する。                      【三鷹『学び』のスタンダード】                      ○役割演技を取り入れた発問を工夫したりすることで、個人→グループ→全体と交流を広げクラスのみんなが参加出来るようにする。【学習習慣2】                      ○全員が振り返りを記入できるように十分な時間を確保したり、ワークシートの様式を工夫する。【学習習慣3】</p>
第5学年	<p><b>【成果】</b>                      ○読み物教材の登場人物に自我関与して自分事として考えながら、意欲的に取り組むようになった。                      ○児童が道徳的価値についての理解をもとに、すずんで考えるようになった。                      ○振り返りで、自分の生活を振り返る機会をもつことで、これまでの生き方の課題に気づき、自己の生き方を深めようとする姿が見られるようになった。                      ○自分の考えを発表できる児童が増え、話し合うことで多面的・多角的に考える力が高まった。</p> <p><b>【課題】</b>                      ○児童が主体的に取り組めるように、指導方法をさらに改善、工夫していく必要がある。(導入や資料提示の工夫)                      ○高められた実践意欲が、実際の行動に結び付いているかどうかの見取りをしていく必要がある。</p>	<p><b>【現状と課題】</b>                      ○教材の内容について、自分事として考え、意欲的に取り組むことができた。                      ○ペアやグループ、全体など、考えを発表し共有する場を設けることで、考えを深めることができた。                      ○ねらいから外れてしまう児童や、自己の生き方について考えることが苦手な児童がいる。</p>	<p><b>【習得と活用】</b>                      ○ねらいとする道徳的価値を明確にする。  <b>【補充的・発展的な指導】</b>                      ○自分の生活を振り返る時間を十分に設け、これからの自己の生き方について考え、実践しようという意欲を高められるようにする。                      【三鷹『学び』のスタンダード】                      ○自分の生活を振り返る時間を十分に設け、これからの自己の生き方について考え、実践しようという意欲を高められるようにする。【学習習慣5】</p>
第6学年	<p><b>【成果】</b>                      ○児童同士で対話する機会を毎回設けたことで、多様な考えに触れ考えを深めることができた。                      ○資料提示を工夫することで、教材の登場人物に深く自我関与し、自分事として捉えることができた。</p> <p><b>【課題】</b>                      ○実践意欲は長く続かない。</p>	<p><b>【現状と課題】</b>                      ○児童同士で対話をする活動を多く取り入れることで、考えを深めることができた。                      ○児童にとって学習内容に入りやすい教材を活用することで、児童を学習内容に引き込むことができた。                      ○授業の中で学んだことを、自分のこと・これからの生活に落とし込んで考えられている児童もいるが、行動変容にまでつなげることが難しい。</p>	<p><b>【習得と活用】</b>                      ○どんな意見でも受け入れる雰囲気づくりを教師からつくっていくことで、心理的安全性のある場にする。</p> <p><b>【補充的・発展的な指導】</b>                      ○学んだことを、自分のこと・これからの生活のことに落とし込んで考えていけるように振り返りを書く時間を十分に設ける。                      ○意見や考えを発表する、発表しないにかかわらず、児童同士で交流し、考えを深められるような活動を行う。                      【三鷹『学び』のスタンダード】                      ○学んだことを、自分のこと・これからの生活のことに落とし込んで考えていけるように振り返りを書く時間を十分に設ける。【学習習慣5】</p>